



報道関係者各位

プレスリリース

2010年10月26日

レインフォレスト・アクション・ネットワーク (RAN)

熱帯林行動ネットワーク (JATAN)

**レインフォレスト・アクション・ネットワークと熱帯林行動ネットワークは  
インドネシアのAPP社製の紙製品のカーボンフットプリントに関する新調査結果を発表。  
森林や泥炭地への影響を含めたAPP社の紙1トンの生産で16~21トンCO<sub>2</sub>以上の排出となり、  
北米で利用可能な最高レベルの古紙100%再生紙のカーボンフットプリントの約53倍~70倍。こ  
の大きな炭素排出に加え、APP社の森林利用は、絶滅寸前種のスマトラトラを含め、生物多様性に  
大きな悪影響を与えている。**

名古屋 レインフォレスト・アクション・ネットワーク(所在地:サンフランシスコ、事務局長:レベッカ・ターボトン、以下RAN)と熱帯林行動ネットワーク(所在地:東京都新宿区、事務局長:原田 公、以下JATAN)は、アジア・パルプ・アンド・ペーパー社(インドネシア本社所在地:ジャカルタ、CEO:テグー・ガンダ・ウィジャヤ、以下APP)製の紙製品のカーボンフットプリントに関するレポート“Asia Pulp & Paper’s Hidden Emissions: Calculating the Real Carbon Footprint of APP’s Paper”「APP社の隠された排出:APP製用紙の本当のカーボンフットプリント計算」を発表しました。

調査結果によれば、森林や泥炭地への影響を含めたAPP社製の紙1トン当たりで16~21トン以上の二酸化炭素排出量となります。またスマトラ島でのAPP社の紙パルプ工場や森林管理地の総排出量は少なくとも6700万~8500万トン。これにより2006年の排出量順位でAPP社が165の国々よりも上位となります。APP社がEnvironmental Resources Management (ERM)社に委託したレポート(2008年発表)では、1トン当たりの二酸化炭素排出量は0.03トンとしていたもので、これと比較すると550倍~700倍の排出量です。こうした違いは、主に、APP社のパルプ工場の木材チップ原料に関連する泥炭湿地からの分解や伐採されたバイオマスからのカーボンフットプリントがERMのレポートにおいては含まれていなかったためと考えられます。また他の原料の紙と比較すると、北米で利用可能な最高レベルの古紙100%再生紙のカーボンフットプリント報告に比してAPP社の紙製品の排出量は53倍~70倍です。この大きな炭素排出に加え、APP社の森林利用は、絶滅寸前種のスマトラトラを含め、生物多様性に大きな悪影響を与えています。

なお、本調査(英語)は、[こちら](#)からダウンロードできます。

【本件に関するお問い合わせ先】 担当:川上 豊幸(25日及び26日はCOP10関連で名古屋に滞在)

レインフォレスト・アクション・ネットワーク(RAN) 日本代表部

熱帯林行動ネットワーク(JATAN) 運営委員/事務局

携帯番号:080-3488-9849 電子メール:ran\_toyo@yahoo.co.jp

**RAINFOREST ACTION NETWORK**      **JAPAN TROPICAL FOREST ACTION NETWORK**

221 Pine Street | 5th Floor | San Francisco, CA | 94104 | Tel (415) 398-4404 | Fax (415) 398-2732 | ran.org

新宿区新宿1-23-16 | 第二徳丸ビル3階 | 160-0022 | Tel (03) 5269-5097 | Fax (03) 3341-2277 | jatan.org